

令和元年度
長野市放課後子ども総合プラン事業
自己評価集計結果

長野市こども未来部こども政策課

令和元年度 長野市放課後子ども総合プラン事業 自己評価集計結果

長野市放課後子ども総合プラン事業ガイドライン（平成30年3月策定。以下「ガイドライン」といいます。）に基づき、令和元年度（平成31年度）における放課後子ども総合プラン事業の実施内容等について、実施場所ごとに自己評価を行いました。

《長野市放課後子ども総合プラン事業ガイドライン》

第2章 基本的事項及び管理運営

10 自己評価

事業者は、運営内容の向上のため、実施場所ごとに提供する支援の内容等について自己評価を行い、その公表に努めるものとします。

1 実施状況

対象：90施設 実施：90施設（実施率100%）

（参考：平成30年度 対象90施設 実施90施設（実施率100%））

2 集計結果（評価項目ごとの評価指標等については、次頁以降）

評価項目	評価結果				
	区分	◎	○	△	×
1 人権への配慮、秘密の保持等、基本的事項に関すること	R元年度	90施設	0施設	0施設	0施設
	H30年度	90施設	0施設	0施設	0施設
2 運営管理に関すること	R元年度	35施設	48施設	7施設	0施設
	H30年度	46施設	36施設	8施設	0施設
3 育成支援の内容に関すること	R元年度	61施設	28施設	1施設	0施設
	H30年度	62施設	25施設	3施設	0施設
4 配慮を要する児童への対応に関すること	R元年度	66施設	18施設	6施設	0施設
	H30年度	56施設	25施設	9施設	0施設
5 多様な体験活動、交流等の機会の提供に関すること	R元年度	55施設	24施設	8施設	3施設
	H30年度	48施設	29施設	13施設	0施設
6 安全管理に関すること	R元年度	60施設	27施設	3施設	0施設
	H30年度	50施設	33施設	7施設	0施設
7 保護者、学校及び地域との連携協力に関すること	R元年度	62施設	25施設	3施設	0施設
	H30年度	63施設	22施設	5施設	0施設

《評価項目1》人権への配慮、秘密の保持等、基本的事項に関すること

評価結果				
区分*	◎	○	△	×
R元年度	90施設	0施設	0施設	0施設
H30年度	90施設	0施設	0施設	0施設

■ ◎ □ ○ ▨ △ □ ×

○、△、×は該当施設なし

※評価指標の「○」の数が4個⇒「◎」、3個⇒「○」、2個⇒「△」、1個以下⇒「×」

《評価指標》

(○の占める割合)

<p>① 児童及びその家族の人権に十分配慮し、一人一人の人格を尊重している。</p>	
<p>② 児童及びその家族の国籍、信条又は社会的身分等によって、差別的な扱いをしていない。</p>	
<p>③ 児童虐待等、児童の心身に有害な影響を与える行為をしていない。</p>	
<p>④ 児童及びその家族の個人情報を適切に取扱っている。また、正当な理由がなく、業務上知り得た児童及びその家族の秘密を外部に漏らさないよう配慮している。</p>	

結果

全施設で児童やその家庭の人権の尊重やプライバシーの保護の重要性が認識され、情報の管理が徹底されている。

施設コメント（主なもの、参考となるもの）

- ・ 人権の尊重、秘密の保持は、働く上で守らなければならない基本であると心得ている。
- ・ 児童、保護者の気持ちに寄り添いながら、どの児童にも平等に対応している。時には、家庭の事情に立ちいった内容の相談も受けるが、外部に漏らさないようにしている。
- ・ 子ども達の前で職員同志、児童、家族等のプライベートな会話はしないよう注意している。
- ・ 児童一人ひとりから意見を聞き、頭ごなしに反論はしないように、また皆を公平に扱うように心がけている。
- ・ 個人情報の流出防止の為、全ての書類保管場所には、施錠している。

《評価項目2》運営管理に関すること

評価結果				
区分*	◎	○	△	×
R元年度	35施設	48施設	7施設	0施設
H30年度	46施設	36施設	8施設	0施設

◎ △ ○ ×

R1年度 39% 53% 8%

H30年度 51% 40% 9%

0% 20% 40% 60% 80% 100%

×は該当施設なし

※保育実費の負担を求めている施設（①～⑩）

評価指標の「○」の数が10個⇒「◎」、7～9個⇒「○」、4～6個⇒「△」、3個以下⇒「×」

保育実費の負担を求めていない施設（①～⑨）

評価指標の「○」の数が9個⇒「◎」、7・8個⇒「○」、4～6個⇒「△」、3個以下⇒「×」

《評価指標》

（○の占める割合）

① 実施日は、1年につき250日以上を原則とし、保護者の就労状況、学校の授業日、その他地域の実情を考慮して設定している。	<p>R1年度 97%</p> <p>H30年度 98%</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
② 実施時間の延長については、保護者の意向を把握するためのアンケート調査を地域の実情に応じて実施し、運営委員会で決定した方針に基づいたものとしている。	<p>R1年度 92%</p> <p>H30年度 90%</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
③ 運営規程を定め、運営規程に沿った事業運営を行っている。	<p>R1年度 98%</p> <p>H30年度 96%</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
④ 職員は、自己研さんに励み、児童の健全な育成を図るために必要な知識及び技能の習得、維持及び向上に努めている。また、職員間で必要な知識及び技能の共有を図っている。	<p>R1年度 100%</p> <p>H30年度 97%</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
⑤ 運営内容向上のため、提供する支援の内容等について自己評価を行っている。	<p>R1年度 86%</p> <p>H30年度 79%</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
⑥ 自己評価の結果は、掲示板への掲示や通信（施設だより等）への掲載などにより公表に努めている。	<p>R1年度 53%</p> <p>H30年度 68%</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>

<p>⑦ 要望・苦情を受け付ける窓口を設置し、周知している。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1年度</td> <td>91%</td> </tr> <tr> <td>H30年度</td> <td>83%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	割合	R1年度	91%	H30年度	83%
年度	割合						
R1年度	91%						
H30年度	83%						
<p>⑧ 苦情を受けた場合は速やかに対応し、申立人に対して丁寧な説明や対応を心掛け、誠意ある解決を図っている。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1年度</td> <td>99%</td> </tr> <tr> <td>H30年度</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	割合	R1年度	99%	H30年度	100%
年度	割合						
R1年度	99%						
H30年度	100%						
<p>⑨ おやつ提供については、保護者の意向を把握するためのアンケート調査を地域の実情に応じて実施し、運営委員会で決定した方針に基づいたものとしている。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1年度</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>H30年度</td> <td>86%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	割合	R1年度	80%	H30年度	86%
年度	割合						
R1年度	80%						
H30年度	86%						
<p>⑩ おやつ代等保育実費の負担を求める場合、保護者に対して料金設定の理由を明確にしている。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">令和元年度対象施設は、50施設</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1年度</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td>H30年度</td> <td>98%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	割合	R1年度	98%	H30年度	98%
年度	割合						
R1年度	98%						
H30年度	98%						

結果

- ・自己評価の実施結果の公表をした施設の割合が前年度から低下した。
- ・ガイドラインに定める苦情の受付窓口の設置・周知の達成割合が前年度から上昇した。また、受付窓口の設置・周知ができていない施設においても、要望や苦情に関する情報の伝達や共有化の取組みは行われている。

施設コメント（主なもの、参考となるもの）

- ・運営委員会を中心に運営規定を定め、運営規定に沿った事業運営を行い、保護者との連絡を密にして連絡を取り合い適切に運営している。
- ・児童数の減少に伴い利用者が少なくなり、開館日数は240日になっている。ただし、保護者の意向は頻繁に聞き取るようにしている。
- ・自己研鑽は終わりが無い。日々起こる事例への対処の仕方を反省・検証して研鑽に努めたい。
- ・苦情相談窓口を特別設けてはいないが、職員が受け付けたものでも必ず施設長に報告し、共有化し、誠意ある対応解決を図っている。
- ・苦情申し立てなどに関して学校内の施設を借りているので、常時掲示することが難しい。
- ・自己評価の公表について共通認識がない。
- ・自己評価について、本調査を持って可とするのか不明であるが、この他に実施する必要があるのであれば評価対象指針（内容）等を提示してほしい。
- ・保育実費に関しては、センター利用の有料化時期にアンケートをとり、金額を決定した。特におやつに関しては、週単位で表示して児童のアレルギーを把握して提供している。

《評価項目3》育成支援の内容に関すること

評価結果				
区分*	◎	○	△	×
R元年度	61施設	28施設	1施設	0施設
H30年度	62施設	25施設	3施設	0施設

◎ ○ △ ×

×は該当施設なし

※おやつを提供している施設（①～⑨）

評価指標の「○」の数が9個⇒「◎」、7・8個⇒「○」、4～6個⇒「△」、3個以下⇒「×」

おやつを提供していない施設（①～⑧）

評価指標の「○」の数が8個⇒「◎」、6・7個⇒「○」、4・5個⇒「△」、3個以下⇒「×」

《評価指標》

（○の占める割合）

① 児童の出欠席についてあらかじめ保護者からの連絡を確認しておくとともに、児童の心身の状況を把握するようにしている。	<p>R1年度 77%</p> <p>H30年度 78%</p>
② 実施場所での生活を通して、児童が日常生活に必要となる基本的な生活習慣を習得できるよう支援している。	<p>R1年度 99%</p> <p>H30年度 100%</p>
③ 児童が発達段階に応じた主体的な遊びや生活ができるよう支援している。	<p>R1年度 98%</p> <p>H30年度 98%</p>
④ 児童が自分の気持ちや意見を表現することができるよう支援している。	<p>R1年度 100%</p> <p>H30年度 99%</p>
⑤ 児童が悩みや相談事を話しやすい雰囲気づくりに心掛けるようにしている。	<p>R1年度 97%</p> <p>H30年度 96%</p>
⑥ 児童が安全に安心して過ごすことができるように環境を整備するとともに、緊急時に適切な対応ができるようにしている。	<p>R1年度 96%</p> <p>H30年度 97%</p>

<p>⑦ 実施場所での児童の様子を日常的に保護者に伝え、児童に関する情報を保護者と共有するようにしている。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1年度</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td>H30年度</td> <td>92%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	割合	R1年度	98%	H30年度	92%
年度	割合						
R1年度	98%						
H30年度	92%						
<p>⑧ 児童の健康状況を観察し、病気やけがの場合には、保護者と連絡を取り、迎えに来てもらったり、状況に応じて医療機関につなげたりするなど、児童が安心して回復に向かうことができるよう配慮している。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>H30年度</td> <td>97%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	割合	R1年度	100%	H30年度	97%
年度	割合						
R1年度	100%						
H30年度	97%						
<p>⑨ おやつを提供する場合、提供する時間や内容、量等は、児童の来所時間や帰宅時間、遊びや生活の流れ、児童の状態を考慮している。</p> <p>令和元年度対象施設は、46施設</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1年度</td> <td>96%</td> </tr> <tr> <td>H30年度</td> <td>94%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	割合	R1年度	96%	H30年度	94%
年度	割合						
R1年度	96%						
H30年度	94%						
<p>結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度においても平成30年度と同様に、2割超の施設で児童の出欠席の事前把握が実施できていない。 児童から相談しやすい雰囲気づくりや施設での児童の様子を保護者に伝達する体制づくりが達成された施設の割合が前年度から上昇した。 							
<p>施設コメント（主なもの、参考となるもの）</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者に月毎の出欠表を記入して貰うことにより、利用数と児童の心身の状況を把握しやすくしている。 「連絡用メモ」「電話」「FAX」などを用い、欠席の場合学校へは来ているのか・センターを休む理由は何か（病気か何かの都合でか）の把握をしている。 下校してきた時様子を見ていつもと違う様子の時は職員で共有して注意している。 共同生活に必要なルールを決めそれを守ることで集団生活に順応し、成長することを目指している。 児童の発育状況に特に注意して接している。個人々に個性があるので、良いことは「よし」、いけないことは「いけない」とケジメをつけている。 児童の安全の確保が重要課題であることから、児童の発達に応じた主体的活動に安全面から制限をかけてしまうことが多々ある。今後の課題としたい。 児童数が多く、児童個人と向き合う時間がなかなか取れず、どうしても問題を起こす子、声を上げる児童に目が行ってしまうことが多い。 保護者への児童の様子への情報提供は非常時（怪我、病気等）に偏ることが多い。日常の様子への情報提供にも努めたい。 							

《評価項目4》配慮を要する児童への対応に関すること

評価結果				
区分*	◎	○	△	×
R元年度	66施設	18施設	6施設	0施設
H30年度	56施設	25施設	9施設	0施設

◎ ○ △ ×

×は該当施設なし

※評価指標の「○」の数が6個⇒「◎」、5個⇒「○」、3・4個⇒「△」、2個以下⇒「×」

《評価指標》

(○の占める割合)

<p>① 児童同士が生活を通して共に成長できるよう、障害のある児童についても受入れに努めている。</p>	<p>R1年度 98%</p> <p>H30年度 100%</p>
<p>② 障害のある児童の受入れの判断は、児童や保護者と面談の機会を持つなどして、児童の健康状態、発達の状況、家族の状況、保護者の意向等を個別に把握し、適切に行っている。</p>	<p>R1年度 94%</p> <p>H30年度 90%</p>
<p>③ 障害のある児童の育成支援については、個々の状況に応じて、関係機関及び専門家と連携を図っている。</p>	<p>R1年度 82%</p> <p>H30年度 76%</p>
<p>④ 障害のある児童の育成支援が適切に図られるように、児童の状況に応じた職員の配置や加配に努めている。</p>	<p>R1年度 93%</p> <p>H30年度 92%</p>
<p>⑤ 児童虐待が疑われる場合には、市又は児童相談所に速やかに通告するようにしている。また、学校及び関係機関と連携して適切に対応している。</p>	<p>R1年度 99%</p> <p>H30年度 96%</p>
<p>⑥ 児童間でいじめ等の関係が生じないように配慮し、いじめ等の問題が生じたときには速やかに学校に連絡し、保護者、学校、関係機関と連携して適切に対応している。</p>	<p>R1年度 100%</p> <p>H30年度 94%</p>

結果

障害のある児童の育成支援に関する関係機関・専門家との連携を図る施設の割合が平成30年度から上昇したが、依然として約2割の施設で実施できていない。

施設コメント（主なもの、参考となるもの）

- ・障害のある児童への支援方法を職員同士で常に話し合い、情報共有に努めている。しかし、保護者が障害の程度を知らせてくれない時があり、支援に戸惑うことがある。また、放課後デイサービス・障害者通所施設等との連携が不足しているのが現状である。
- ・児童の対応や指導において小学校の先生方から多くの協力を得ている。
- ・保護者から関係機関や専門家と相談した結果を提供していただくことで、その児童に応じた支援を行っている。
- ・個別に支援記録ファイルを作り、それをもとに学校との連携をとっている。
- ・障害のある児童にも分け隔てなく対応出来ている。児童同士でも仲良く過ごせているが、中には障害を理解できず指導に迷うことがある。
- ・個々の児童の育成支援については、支援員、補助員の数の限りもあり、配置に大変苦労することもある。
- ・児童の様子・態度・服装などに注意を払い、虐待が疑われる場合は学校での様子など聞き相談するようにしている。
- ・いじめ等が生じたときは、いじめた側の理由を聞き、善悪の判断を指導している。また、迎えに来た親に報告し、家庭でも話し合ってもらうようにしている。
- ・トラブルについては児童などから実際どうなっていたかを聞き取り、記録に残し、文章にして学校に上げ、連携して取り組めるようにしている。

《評価項目5》多様な体験活動、交流等の機会の提供に関すること

評価結果				
区分*	◎	○	△	×
R元年度	55施設	24施設	8施設	3施設
H30年度	48施設	29施設	13施設	0施設

◎ ○ △ ×

年度	◎	○	△	×
R1年度	61%	27%	9%	3%
H30年度	53%	32%	14%	0%

※評価指標の「○」の数が4個⇒「◎」、3個⇒「○」、2個⇒「△」、1個以下⇒「×」

《評価指標》

(○の占める割合)

<p>① 児童に多様な体験活動、交流等の機会を定期的かつ継続的に提供している。</p>	<p>R1年度 93%</p> <p>H30年度 98%</p>
<p>② 小学校区における事業の円滑な実施を図るため、運営委員会、学校関係者、地域組織（母親クラブ等）、地域住民、保護者等との総合的な調整に努めている。</p>	<p>R1年度 89%</p> <p>H30年度 90%</p>
<p>③ 地域社会全体で児童を見守り育む機運を高めるため、地域ボランティアの掘り起しと、活用に努めている。</p>	<p>R1年度 69%</p> <p>H30年度 66%</p>
<p>④ 活動の内容は特定のものに偏ることのないよう配慮し、児童の要望を反映するように努めている。</p>	<p>R1年度 94%</p> <p>H30年度 86%</p>

結果

令和元年度においても平成30年度と同様に、3割超の施設で地域ボランティアの掘り起こしや活用が課題となっている。

施設コメント（主なもの、参考となるもの）

- ・コーディネーターや地域の人たちの協力をいただいている体験学習、グループホーム訪問を通じて地域の人たちとの交流を深めている。
- ・地域社会で児童を見守ることをモットーとするならば、地域にある公民館を活用するのが理想的である。地域に住む高齢者を児童見守りボランティアにお願いできれば、地域密着でき地域活性化にも繋がる。人生経験豊富な高齢者の生き甲斐にもなる。
- ・学校の空き教室を見込んでのプラザ開館なのだろうが、公民館を活用すれば児童数も分散できるし、「地域の子は地域で育てる」ことにも繋がる。

- ・台風災害で避難所になり学校の教室を借りていた時に、たくさんの地域のボランティアの方達に支援いただき乗り切ることができた。アドバイザーさんにも、災害時、コロナウイルスで休校になった時にたくさん来ていただき、一緒に子ども達の支援に当たっていただきとても助かった。
- ・校長先生、教頭先生が多忙を理由になかなか懇談会に応じてくれないのが悩みである。運営委員会が児童センターの運営を主体的に担う体制になっていないため、諸課題について実践的な動きにならないのが問題である。
- ・地域ボランティアの方に演奏会をしていただいたり、人形劇などで誕生会を盛り上げていただいたりしている。
- ・限られた時間の中で地域との交流を企画することは難しい面もある。また、学校や地域組織、地域住民からの積極的な働きかけも少なく大変難しい。

《評価項目6》安全管理に関すること

評価結果				
区分*	◎	○	△	×
R元年度	60施設	27施設	3施設	0施設
H30年度	50施設	33施設	7施設	0施設

◎ ○ △ ×

R1年度: ◎ 67%, ○ 30%, △ 3%, × 0%

H30年度: ◎ 56%, ○ 37%, △ 8%, × 0%

×は該当施設なし

※おやつを提供している施設（①～⑨）

評価指標の「○」の数が9個⇒「◎」、7・8個⇒「○」、4～6個⇒「△」、3個以下⇒「×」

おやつを提供していない施設（①～⑧）

評価指標の「○」の数が8個⇒「◎」、6・7個⇒「○」、4・5個⇒「△」、3個以下⇒「×」

《評価指標》

（○の占める割合）

① 児童の手洗いやうがいを励行するなど、日常の衛生管理に努めている。	R1年度: 100%	H30年度: 100%
② 感染症の発生状況について情報を収集し、感染症の発生や疑いがある場合には、二次感染を防止するための措置を講じるようにしている。	R1年度: 100%	H30年度: 100%
③ 実施場所及びその周辺の設備等の安全性について日常的に点検している。	R1年度: 98%	H30年度: 96%
④ 事故及びけがの防止に向けた対策や発生時の対応に備えた訓練又は研修を実施している。	R1年度: 76%	H30年度: 69%
⑤ 事故及びけがが発生した場合には、速やかに適切な処置を行い、速やかに保護者に連絡するようにしている。	R1年度: 100%	H30年度: 100%
⑥ 災害等が発生した場合に迅速かつ適切に対応できるように定期的に訓練を実施している。	R1年度: 88%	H30年度: 79%

<p>⑦ 市及び学校等関係者と連携を図り、地域における児童の安全確保及び安全点検に関する情報の共有に努めている。</p>	<table border="1"> <tr> <td>R1年度</td> <td>91%</td> </tr> <tr> <td>H30年度</td> <td>89%</td> </tr> </table>	R1年度	91%	H30年度	89%
R1年度	91%				
H30年度	89%				
<p>⑧ 災害等が発生した際に保護者及び市、学校等に速やかに連絡できるよう連絡体制を整備している。</p>	<table border="1"> <tr> <td>R1年度</td> <td>93%</td> </tr> <tr> <td>H30年度</td> <td>89%</td> </tr> </table>	R1年度	93%	H30年度	89%
R1年度	93%				
H30年度	89%				
<p>⑨ おやつを提供する場合には、食物アレルギー及び窒息事故の防止に留意するとともに、食中毒防止のための衛生管理を徹底している。</p> <p style="text-align: center;">令和元年度対象施設は、46 施設</p>	<table border="1"> <tr> <td>R1年度</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td>H30年度</td> <td>100%</td> </tr> </table>	R1年度	98%	H30年度	100%
R1年度	98%				
H30年度	100%				

結果

- ・ 日常的な衛生管理や安全管理、事故やけがが発生した場合の処置についてはほとんどの施設で徹底されている。
- ・ 事故やけがが発生した場合に備えた訓練又は研修の実施を行う施設の割合が前年度から上昇したものの、依然として約2割の施設では達成できていない。

施設コメント（主なもの、参考となるもの）

- ・ 新型コロナウイルス感染症予防のための手洗い・うがいの指導の徹底、検温にこまめな消毒・換気の実施に努めている。
- ・ 緊急時に保護者へ一斉に連絡を送信する方法が準備できていない。学校メールのような体制が必要に思う。
- ・ 日常の活動の中で危険な場所に行くことや危険な遊びは禁止するよう徹底して指導している。事故及びケガが発生したときは速やかに対処し、保護者に連絡等を行い再発防止をするよう普段から心がけている。
- ・ 事故やケガ防止については、高所に物を置かない（重ねない）、床などに危険な物を置かないなど常に気を配っている。
- ・ 風水害、火災の発生や不審者対応などに備え、保護者、長野市、学校との連携が図られるように連絡体制を日常的に確認している。
- ・ 事故やけがの防止に関する対策は行っているが、発生時の対応に備えた訓練や研修は行っていない（どのように行うかわからない）。
- ・ 地域の交番の方に巡回と見守りをしてもらい助かっている。今後は、不審者対策や交通安全について指導していただく機会を設けたいと思っている。
- ・ 地域が広すぎて関係者との連携は図れるものの、地域における安全確保や安全点検はできていない。

《評価項目7》保護者、学校及び地域との連携協力に関すること

評価結果				
区分*	◎	○	△	×
R元年度	62施設	25施設	3施設	0施設
H30年度	63施設	22施設	5施設	0施設

◎ ○ △ ×
 R1年度 69% 28% 3%
 H30年度 70% 24% 6%
 0% 20% 40% 60% 80% 100%
 ×は該当施設なし

※評価指標の「○」の数が4個⇒「◎」、3個⇒「○」、2個⇒「△」、1個以下⇒「×」

《評価指標》

(○の占める割合)

① 保護者との信頼関係を築くよう努めるとともに、子育てのこと等について保護者が相談しやすい雰囲気づくりを心掛けている。	R1年度 98% H30年度 100%
② 保護者から相談がある場合には、保護者の気持ちを受け止め、対応している。	R1年度 100% H30年度 100%
③ 児童の毎日の生活が学校、実施場所、家庭の間で連続性をもって円滑になるよう、学校と情報交換を行い、連携を図っている。	R1年度 92% H30年度 88%
④ 児童が地域の中で健やかに育つことができるよう、運営委員会及び民生委員・児童委員、地域組織（母親クラブ等）、児童に関わる関係機関等との情報交換、情報共有及び相互交流を行い、連携を図っている。	R1年度 76% H30年度 77%

結果

- 令和元年度においても平成30年度と同様に、地区の運営委員会、地域の児童福祉関係者等との情報共有等の連携が約2割の施設で達成できていない。

施設コメント（主なもの、参考となるもの）

- 保護者との個別懇談会を開催するなどして、送り迎えのない保護者などにも意見を聞けるように機会を設けている。
- 学校の先生には良くして頂いている。また、子どもの様子をできるだけ話して伝えている。
- 学校の先生方が「多忙」を理由に懇談会や情報交換に応じてくれないのが課題である（昨

年よりは情報交換の機会は増えているが、まだ不足)。

- ・運営委員会の役員さんと日常にお会いする機会がほとんどなく、情報共有が難しい。
- ・保護者との信頼関係を築くように、保護者との相談しやすい雰囲気作りを心がけてきたが、地域全体での児童が健やかに育つための連携は不十分である。今後、頑張らなければならない。
- ・学校とは連絡会を通じて問題の共有を図っているが、学校側のセンターに対する意識・関心が低く、連絡などが来ない事例等改善を要する点がある。
- ・民生委員・児童委員等施設に関わる認知度も低く、今後どう周知し連携を取ってゆくかが課題です。
- ・学校との連携は、支援会議や連絡会を通じて、管理者とはある程度出来ていると感じているが、課題としてはクラス担任との連携である。

長野市放課後子ども総合プラン事業自己評価実施要領

長野市放課後子ども総合プラン事業ガイドライン（平成 30 年 3 月策定）第 2 章の 10 に規定する自己評価は、長野市放課後子ども総合プラン推進委員会の意見を踏まえ、次のとおり実施します。

1 目的

自己評価は、施設の職員が日頃行っている業務の内容を点検・評価し、問題点や今後の取り組みを職員全員で検討することにより、運営内容の向上を図ることを目的とします。

2 実施方法

- (1) 長野市放課後子ども総合プラン事業自己評価シート（別紙）を用いて評価します。
- (2) 毎年度、1 年間の取り組みを振り返り年度末に評価します。
- (3) 評価には施設の職員全員が参加することを原則とし、客観的な評価を心掛けます。

3 自己評価シートの記入方法

- (1) 評価項目の各評価指標について、できている場合は「○」、できていない場合は「×」をチェック欄に記入します。
- (2) チェック欄の「○」を計数し、評価基準欄に示す「○」の数に応じた評価記号を、評価結果欄に記入します。なお、評価記号の目安は次のとおりです。

チェック欄に占める「○」の数の割合	評価記号
10割	◎
7割以上10割未満	○
4割以上7割未満	△
4割未満	×

- (3) コメント欄に、評価の理由及び問題点、独自の工夫、今後の取り組みなどを記入します。

4 評価結果の公表

自己評価の結果は、運営委員会への報告及び掲示板への掲示又は通信（施設だより等）への掲載などにより、公表に努めます。

5 評価結果の市への報告等

(1) 市への報告

事業者は、各施設の評価結果を取りまとめ、翌年度の 4 月末までに市に報告します。

(2) 推進委員会への報告等

市は、全体の評価結果を取りまとめたものを、長野市放課後子ども総合プラン推進委員会に報告した上、市ホームページで公開します。

附 則

- 1 この要領は、平成 31 年 2 月 15 日から施行します。

長野市放課後子ども総合プラン事業 自己評価シート

実施年度： 年度 事業者名： 施設名：

各評価指標について、できている場合は「○」、できていない場合は「×」を記入

〈評価項目1〉人権への配慮、秘密の保持等、基本的事項に関すること

評価指標	チェック	評価基準 (チェック欄の○の数)	評価結果
① 児童及びその家族の人権に十分配慮し、一人一人の人格を尊重している。		4個⇒「◎」 3個⇒「○」 2個⇒「△」 1個以下⇒「×」	
② 児童及びその家族の国籍、信条又は社会的身分等によって、差別的な扱いをしていない。			
③ 児童虐待等、児童の心身に有害な影響を与える行為をしていない。			
④ 児童及びその家族の個人情報を選択的に取扱っている。また、正当な理由がなく、業務上知り得た児童及びその家族の秘密を外部に漏らさないよう配慮している。			
コメント (評価の理由、問題点、独自の工夫、今後の取り組みなど)			

〈評価項目2〉運営管理に関すること (保育実費の負担を求めている施設は、⑩は回答不要)

評価指標	チェック	評価基準 (チェック欄の○の数)	評価結果		
A B ① 実施日は、1年につき250日以上を原則とし、保護者の就労状況、学校の授業日、その他地域の実情を考慮して設定している。 ② 実施時間の延長については、保護者の意向を把握するためのアンケート調査を地域の実情に応じて実施し、運営委員会で決定した方針に基づいたものとしている。 ③ 運営規程を定め、運営規程に沿った事業運営を行っている。 ④ 職員は、自己研さんに励み、児童の健全な育成を図るために必要な知識及び技能の習得、維持及び向上に努めている。また、職員間で必要な知識及び技能の共有を図っている。 ⑤ 運営内容向上のため、提供する支援の内容等について自己評価を行っている。 ⑥ 自己評価の結果は、掲示板への掲示や通信(施設だより等)への掲載などにより公表に努めている。 ⑦ 要望・苦情を受け付ける窓口を設置し、周知している。 ⑧ 苦情を受けた場合は速やかに対応し、申立人に対して丁寧な説明や対応を心掛け、誠意ある解決を図っている。 ⑨ おやつを提供については、保護者の意向を把握するためのアンケート調査を地域の実情に応じて実施し、運営委員会で決定した方針に基づいたものとしている。 ⑩ おやつ代等保育実費の負担を求める場合、保護者に対して料金設定の理由を明確にしている。		A 保育実費の負担を求めている施設(①~⑩) 10個⇒「◎」 7~9個⇒「○」 4~6個⇒「△」 3個以下⇒「×」			
	コメント (評価の理由、問題点、独自の工夫、今後の取り組みなど)				

〈評価項目3〉育成支援の内容に関すること (おやつを提供していない施設は、⑨は回答不要)

評価指標	チェック	評価基準 (チェック欄の○の数)	評価結果		
A B ① 児童の出欠席についてあらかじめ保護者からの連絡を確認しておくとともに、児童の心身の状況を把握するようにしている。 ② 実施場所での生活を通して、児童が日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう支援している。 ③ 児童が発達段階に応じた主体的な遊びや生活ができるよう支援している。 ④ 児童が自分の気持ちや意見を表現することができるよう支援している。 ⑤ 児童が悩みや相談事を話しやすい雰囲気づくりに心掛けるようにしている。 ⑥ 児童が安全に安心して過ごすことができるように環境を整備するとともに、緊急時に適切な対応ができるようにしている。 ⑦ 実施場所での児童の様子を日常的に保護者に伝え、児童に関する情報を保護者と共有するようにしている。 ⑧ 児童の健康状況を観察し、病気やけがの場合には、保護者と連絡を取り、迎えに来てもらったり、状況に応じて医療機関につなげたりするなど、児童が安心して回復に向かうことができるよう配慮している。 ⑨ おやつを提供する場合、提供する時間や内容、量等は、児童の来所時間や帰宅時間、遊びや生活の流れ、児童の状態を考慮している。		A おやつを提供している施設(①~⑨) 9個⇒「◎」 7・8個⇒「○」 4~6個⇒「△」 3個以下⇒「×」			
	コメント (評価の理由、問題点、独自の工夫、今後の取り組みなど)				

〈評価項目4〉配慮を要する児童への対応に関すること

評価指標	チェック	評価基準 (チェック欄の○の数)	評価結果
① 児童同士が生活を通して共に成長できるよう、障害のある児童についても受入れに努めている。		6個⇒「◎」 5個⇒「○」 3・4個⇒「△」 2個以下⇒「×」	
② 障害のある児童の受入れの判断は、児童や保護者と面談の機会を持つなどして、児童の健康状態、発達の状況、家族の状況、保護者の意向等を個別に把握し、適切に行っている。			
③ 障害のある児童の育成支援については、個々の状況に応じて、関係機関及び専門家と連携を図っている。			
④ 障害のある児童の育成支援が適切に図られるように、児童の状況に応じた職員の配置や加配に努めている。			
⑤ 児童虐待が疑われる場合には、市又は児童相談所に速やかに通告するようにしている。また、学校及び関係機関と連携して適切に対応している。			
⑥ 児童間でいじめ等の関係が生じないように配慮し、いじめ等の問題が生じたときには速やかに学校に連絡し、保護者、学校、関係機関と連携して適切に対応している。			
コメント (評価の理由、問題点、独自の工夫、今後の取り組みなど)			

〈評価項目5〉多様な体験活動、交流等の機会の提供に関すること

評価指標	チェック	評価基準 (チェック欄の○の数)	評価結果
① 児童に多様な体験活動、交流等の機会を定期的かつ継続的に提供している。		4個⇒「◎」 3個⇒「○」 2個⇒「△」 1個以下⇒「×」	
② 小学校区における事業の円滑な実施を図るため、運営委員会、学校関係者、地域組織（母親クラブ等）、地域住民、保護者等との総合的な調整に努めている。			
③ 地域社会全体で児童を見守り育む機運を高めるため、地域ボランティアの掘り起しと、活用に努めている。			
④ 活動の内容は特定のものに偏ることのないよう配慮し、児童の要望を反映するように努めている。			
コメント (評価の理由、問題点、独自の工夫、今後の取り組みなど)			

〈評価項目6〉安全管理に関すること（おやつを提供していない施設は、⑨は回答不要）

評価指標	チェック	評価基準 (チェック欄の○の数)	評価結果
A B	① 児童の手洗いやうがいを励行するなど、日常の衛生管理に努めている。	A おやつを提供している施設(①～⑨) 9個⇒「◎」 7・8個⇒「○」 4～6個⇒「△」 3個以下⇒「×」 B おやつを提供していない施設(①～⑧) 8個⇒「◎」 6・7個⇒「○」 4・5個⇒「△」 3個以下⇒「×」	
	② 感染症の発生状況について情報を収集し、感染症の発生や疑いがある場合には、二次感染を防止するための措置を講じるようにしている。		
	③ 実施場所及びその周辺の設備等の安全性について日常的に点検している。		
	④ 事故及びけがの防止に向けた対策や発生時の対応に備えた訓練又は研修を実施している。		
	⑤ 事故及びけがが発生した場合には、速やかに適切な処置を行い、速やかに保護者に連絡するようにしている。		
	⑥ 災害等が発生した場合に迅速かつ適切に対応できるように定期的に訓練を実施している。		
	⑦ 市及び学校等関係者と連携を図り、地域における児童の安全確保及び安全点検に関する情報の共有に努めている。		
	⑧ 災害等が発生した際に保護者及び市、学校等に速やかに連絡できるよう連絡体制を整備している。		
	⑨ おやつを提供する場合には、食物アレルギー及び窒息事故の防止に留意するとともに、食中毒防止のための衛生管理を徹底している。		
コメント (評価の理由、問題点、独自の工夫、今後の取り組みなど)			

〈評価項目7〉保護者、学校及び地域との連携協力に関すること

評価指標	チェック	評価基準 (チェック欄の○の数)	評価結果
① 保護者との信頼関係を築くよう努めるとともに、子育てのこと等について保護者が相談しやすい雰囲気づくりを心掛けている。		4個⇒「◎」 3個⇒「○」 2個⇒「△」 1個以下⇒「×」	
② 保護者から相談がある場合には、保護者の気持ちを受け止め、対応している。			
③ 児童の毎日の生活が学校、実施場所、家庭の間で連続性をもって円滑になるよう、学校と情報交換を行い、連携を図っている。			
④ 児童が地域の中で健やかに育つことができるよう、運営委員会及び民生委員・児童委員、地域組織（母親クラブ等）、児童に関わる関係機関等との情報交換、情報共有及び相互交流を行い、連携を図っている。			
コメント (評価の理由、問題点、独自の工夫、今後の取り組みなど)			